

千葉県総合教育センター・千葉県子どもと親のサポートセンター

令和6年度

研究発表会

要申込

千葉の子どもたちの未来のために ～変化する時代に求められる資質・能力の育成をめざして～

対面 先着165名	全体講演・研究発表 2025 2.26 水 会場：千葉県総合教育センター 大ホール ※全体講演または研究発表のみの参加も可能	オンデマンド 先着1000名	全体講演 2025 3.10 月 ▶ 3.21 金 研究発表 2025 2.25 火 ▶ 3.21 金

対面参加時の日程

9:25	9:45	10:00	12:00	13:35	16:30
受付	連絡	全体講演（開閉会行事を含む）	休憩	研究発表（開閉会行事を含む）	

全体講演

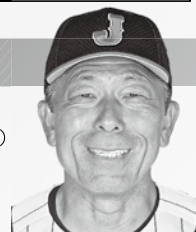
演題

「心を育てる」

講師

U-18 野球日本代表監督
（前 日本大学第三高等学校 野球部監督）

小倉 全由 氏



研究発表

01 カリキュラム開発部 生きる力を育てる道徳科授業づくりに関する研究	02 カリキュラム開発部 小学校における自由研究（科学論文）の手引き作成に係る研究
03 カリキュラム開発部 既存の教科と教科「理数」の相互発展に関する研究	04 学力調査部 全国学力・学習状況調査の活用推進に向けて
05 特別支援教育部 特別支援教育における主体的・対話的で深い学びを実現するためのICT機器の利活用に関する研究 ～自立活動の視点に着目して～	06 子どもと親のサポートセンター 不登校の子どもの心身変化を的確に捉えた支援の在り方 ～子どもと親のサポートセンターの実践からみえてくるもの～

◆申込期間◆

令和6年12月10日（火）～ 令和7年1月24日（金） ※オンデマンドは令和7年3月21日（金）〆切

◆申込方法◆

下記リンクまたは二次元コードから御申込みください。

https://apply.e-tumo.jp/pref-chiba-u/offer/offerList_detail?tempSeq=36560

◆問合せ先◆

千葉県総合教育センター 〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13

☎ 043-276-1274（担当部直通）

✉ sosesurri_kenkyu@mz.pref.chiba.lg.jp



ちばSDGs

「全国学力・学習状況調査」結果の活用について

県総合教育センター学力調査部

1 「令和6年度全国学力・学習状況調査」について

「令和6年度全国学力・学習状況調査」が、4月18日（木）に対象学年の児童生徒に対して実施された。今年度は、教科に関する調査として、国語、算数・数学の調査が、質問調査として、児童生徒及び学校を対象に、オンライン方式により生活習慣や学習環境等についての調査が実施された。

＜教科に関する調査結果＞

＜小学校＞	千葉県	全国
国語	67 (67)	67.7
算数	63 (63)	63.4
＜中学校＞	千葉県	全国
国語	57 (57)	58.1
数学	51 (51)	52.5

※数値は公立学校の平均正答率（％）を表す。ただし、文部科学省の発表に基づき、全国平均正答率は小数第1位まで、県平均正答率は小数点以下を四捨五入した。

※（ ）内は、千葉市を除いた割合を示す。

2 学校全体で分析し、指導改善を推進

校内研修等で、県が活用を推進している3つの分析シートを職員全体で活用することで、自校の成果・課題を発見し、指導の充実・改善のヒントを得ることができる。

(1)教科・質問分析シート

全国、千葉県、自校の結果がレーダーチャートで表示され、自校の状況について一目で捉えることができる。

(2)経年分析シート

全国と比較した自校の結果について、過去3回分の経年による分析ができる。

(3)誤答分析シート

解答類型別に児童生徒の反応率をまとめた文部科学省のデータから、誤答への反応率が

高い設問を選定後、誤答を分析し、改善方策を学校全体で協議することで指導改善につなげることができる。

3 指導改善サイクルの確立を目指して

(1)文部科学省発行の調査結果データ・報告書

調査結果データは、地域に向けた情報発信、授業研究などにおける実態把握・根拠データとしての活用、個別最適な学びの実現に向けた活用など、様々な活用方法が考えられる。報告書は分析や指導改善に有効活用できる。

(2)全国学力・学習状況調査活用の手引き

学校内での時期ごとの取組例など、分析や活用の仕方を分かりやすく記載し、学校現場での授業・学校改善に役立つ内容としている。

(3)活用に係る動画コンテンツ

全国学力・学習状況調査の活用を一層充実させるため、動画コンテンツを作成している。制作した動画は千葉県公式セミナーチャンネルにアップし、県内教育関係者が視聴できるようにしている。

(4)活用に関する研修会

県内教育行政担当者が全国学力・学習状況調査の活用方策に関する理解を深め、学校への指導助言等に活用できるよう、オンラインで研修会を行った。

4 おわりに

全国学力・学習状況調査の結果を分析、活用して、各学校の状況に合わせた指導改善サイクルを確立し、学校全体で、授業改善を進めることで、児童生徒の学力向上につなげていきたい。

県文書館企画展「海を渡った房総の人びと」

令和6年10月1日（火）～令和7年2月27日（木）

県文書館

千葉県文書館は、主に県が作成した公文書や行政資料、県民の方々・団体などから寄贈・寄託を受けた古文書を収蔵している。こうした収蔵文書を中心として、毎年10月から翌年2月にかけて年1回の企画展を開催している。

令和6年は、ペリー来航によって嘉永7（1854）年に結ばれた日米和親条約に基づく開国から170年にあたる。この開国以降、日本人が海外へ行くことができるようになり、海を渡って留学や移住を行う人びとが現れてくるようになる。そこで、今回は明治時代から第二次世界大戦までの時期を対象として房総から海を渡っていった人びとの姿を、資料をもとにして紹介する。飛行機の普及もあり手軽に海外へ行くことができる現在とは違い、船で何日もかけて海を渡っていく必要があった当時、彼らは何を考えて、海を渡っていったのだろうか。今回の展示から、それを感じ取っていただければ幸いである。

1 江戸時代までの海外渡航

ここでは、江戸時代以前に行われていた海外への渡航について、略年表などを用いて簡潔に解説する。また、開国後にベストセラーとなった、福沢諭吉の『西洋旅案内』も展示する。

2 海外を訪問した人びと

旅行や留学などで海外を訪問した人びとについて、残された書簡などから説明する。また、当時使用していた旅行鞆や、人びとを運んでいた船の写真なども展示している。

3 移住した人びと

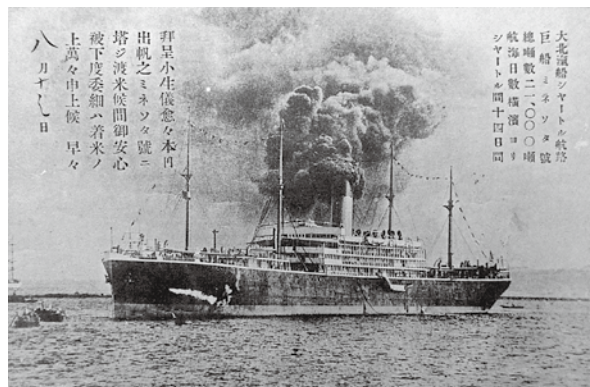
ここでは、海外へ移住した人の姿を、書簡やポスター、当時の絵葉書などから説明する。特に、ハワイ・朝鮮・満州を中心として取り上げ、各地域に房総から人びとが渡っていった実状を見ていく。

4 戦地に赴いた人びと

明治から第二次世界大戦期において、海を渡った人には、留学や移住だけではなく、戦争に動員されて海外に赴いた人びとも存在した。彼らは、何を考えて、戦地に赴き、どのようなことを見聞きしたのだろうか。軍事郵便や当時の写真などを用いて、その状況を読み解いていく。

5 旅券アラカルトコーナー

現在でも、海外へ行くためには欠かせないものである旅券（パスポート）。ここでは、この旅券をまとめて、その変遷などを紹介するとともに、旅券に関連する資料についても取り上げる。



横浜～シアトル間を結んでいたアメリカの旅客船
ミネソタ号＜明治40（1907）年＞



国際パラリンピック委員会公認教材 『I'mPOSSIBLE (アィムポッシブル)』 日本版

日本パラリンピック委員会『I'mPOSSIBLE』日本版事務局

1 『I'mPOSSIBLE』日本版について

『I'mPOSSIBLE』日本版はパラリンピックを題材に、共生社会の実現に向けて「気づき、考え、行動を起こす」力を育むための教材である。I'mPOSSIBLEという教材の名前は「Impossible - 不可能」という単語に「' (アポストロフィ)」を加えた造語で、「I'm possible - 私はできる」という意味がある。「'」を加えただけで言葉の意味が変化するように、ほんの少し考え方や工夫をすることで、それまで無理だと思っていたことも、異なる結果に導けるというメッセージが込められている。

2 アニメーションが授業をリードする教材の魅力

教材は小学生版と中学生・高校生版の2種類があり、それぞれ14の授業ができる。授業の事前準備の負担軽減を念頭に、授業に必要な教材はすべて揃え、教師が障害のことをよく知らない場合でも、子供たちの深い学びに繋げられるよう、様々な工夫がされている。

2024年春にはアニメーション教材が加わり、映像が授業を進行することによって、子供たちにとってあまり身近ではない話題や、想像しにくいシーンを効果的に学習でき、教材研究に要する時間もさらに短縮できる。

公式サイトでは、教材を活用した授業実践事例を写真や映像も交えて紹介している。

道徳科や保健体育科の授業に加え、人権教育等、教科を横断して汎用的に活用することも可能である。



木更津第二中学校での授業実践

3 千葉県出身のパラリンピアン

『I'mPOSSIBLE』日本版初代アンバサダー
香西宏昭選手 (車いすバスケットボール) 推奨!



香西選手 (千葉市立若松小・若松中卒業) は、「社会の環境を変えていくことで誰もが自分のやりたいことに向き合える。そして、それが当たり前のこととしてできる社会であってほしい。」という強い想いのもと、現役プロアスリートでありながら、子供たちの未来を創る活動として、学校訪問や体験授業等を展開している。

千葉にゆかりのある香西選手がバリアフリーをテーマにしたアニメーション教材に登場。次世代を担う子供たちに、共生社会について学び考えることの大切さを伝えている。

アスリートによる学校訪問やパラスポーツ体験などと組み合わせることで、より深い学びにつながると、教材の活用を推奨している。

『I'mPOSSIBLE』日本版公式サイト

<https://iam-possible.online/>

- アニメーション教材含む全教材はサイトより利用可能 (無償)
- 教育関係者を対象に研修会を実施。教材の目的や使い方、展開例の説明や、要望に応じて内容をカスタマイズすることも可能。申し込みはサイトより。(無償)



『I'mPOSSIBLE』日本版 公式X

https://x.com/iam_possible_jp

◎来春「公平」をテーマにした新アニメーション教材を公開予定!

